

【議事録】概要

会議名	芦屋町地方創生推進委員会（第1回）	会場	芦屋町役場 31 会議室			
日時	平成 28 年 7 月 13 日（水） 19:00~20:40					
件名・議題	<p>1) 平成 26 年度 国からの交付金事業について （「地域住民生活等緊急支援のための交付金事業」の評価検証）</p> <p>2) 芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略の 27 年度評価検証について</p> <p>3) 平成 27 年度 国からの交付金事業について （地方創生加速化交付金事業）</p>					
	会 長	内 田 晃	出	副会長	吉 岡 学	出
		新 郷 綾子	出		宮 崎 大樹	欠
		山 木 善文	出		中 西 智昭	出
		山 村 朋代	出		松 本 健吾	欠
		内 海 猛年	出		貝 掛 俊之	出
合意・決定事項						

平成 28 年度 芦屋町地方創生推進委員会（第 1 回）議事録

1 平成 26 年度 国からの交付金事業について

（「地域住民生活等緊急支援のための交付金事業」の評価検証）

（事務局）

定刻となりましたので、只今より第 6 回芦屋町地方創生推進委員会を開催します。本日が本年度最後の会議ということになりますので、皆さま宜しく願いいたします。

（会 長）

皆さまこんばんは。前回会議を開催しましたが、11 月 30 日ということで、それまでは 5 回にわたって短い期間で会議を行っていましたが、それから 3 ヶ月も経ったということです。前回の会議で大体の方向性が固まって、町民の皆さんに対するパブリックコメントが実施されました。それを受けた形で最終的な案が提示されていますので、本日はそれを取りまとめるという作業になるかと思えます。忌憚のない意見をいただければと思います。それでは、議事次第に従いまして、会議を進めさせていただきます。まず、パブリックコメントの結果報告について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）

先般、パブリックコメントを実施させていただきまして、意見を沢山いただきましたので、その結果について報告させていただきたいと思えます。このパブリックコメントは町でルールがございまして、パブリックコメントの案を作成して、最終的に町で決定のうえ議会へ報告し、住民の皆さんへ公表するという順番があります。このルールの従って進めるのですが、本日は素案のとりまとめとなっておりますので、案という状況ではございませんが、事前に皆さんに見ていただきながら報告をさせていただこうと思えます。

それから、このパブリックコメントの期間中はございますが、町内 3 箇所の公民館で住民説明会を開催させていただきました。2 月 5 日、6 日、7 日で開催しましたが、山鹿公民館で 24 名、東公民館で 8 名、中央公民館で 41 名の合計 73 名の方にお越しいただいたところでございます。こちらの周知不足については否めないところでございますが、こういった住民説明会の場を設けさせていただいた中で、少しでもご理解をいただいた中でパブリックコメントの意見をいただこうという趣旨でございました。

事前にお配りしております、パブリックコメントの結果という資料で説明させていただきます。件数が 11 名の 24 件提出されました。町内居住の方が 2 名、町内に勤務されている方が 9 名という内訳でございました。

まず、1 件目がシティープロモーションやシビックプライドなど聞きなれない言葉を入れておりますが、これを分かりやすい表現にするべきではないかというご意見でございました。これについては、今の地方創生の取り組みでは一般的に使用される表現になってきていますし、敢えて使うことで今後も注目されやすいということになるかと思えますので、

基本的に表現は変えず、注釈を加えるような形で対応したいという回答でございます。

2 番目につきましては、観光協会について、指定管理業務に追われて、観光施策がおざなりになっているのではないかと、今ある事務所の場所が町の奥になっているので、町の入り口に必要なのではないか。それと、おもてなしに関しても、海だけではなくて町全体の観光資源を中心にやってもらいたいというご意見でございます。これについては、芦屋流おもてなしという記載をさせていただいておりますが、ここは海に限らず町全体の観光資源を考えておりますので、そのような説明をしております。また、実施していくにあたっては、様々な年齢層の方々の協働が必要となり、将来的にこれが発展していけば仕事づくりにも繋がるという考え方でございますので、そのようなご説明をしております。

次のページです。3 番目です。歴史文化遺産が沢山ありますが、忘れ去られているものも沢山あるところで、芦屋の持っている遺産を町民が育てて、人が町をつくるという理念のもとで5点ほど具体的な事例をご紹介いただいているところでございます。ここにつきましても、歴史・文化資源魅力向上プロジェクトというところで、ご提案いただいているように、資源を新たに発掘したり、付加価値をつけたりする中で、魅力を向上させ人の流れをつくっていきましょう、滞在時間を増やしていきましょうという取り組みを掲げております。それと芦屋釜の里についても、全国唯一の文化財というところで、芦屋釜だけを中心にやるわけではなく、町の歴史文化を最大限活かしていこうというという考え方で、ご指摘の内容は含まれているということをお示ししております。

4 番目については、策定のプロセスに関するご意見でございます。素案をつくる前に、町民の皆さんから意見や提案を求める必要があったのではないかと、町の進め方に対するご意見ご指摘でございますが、町としては所定の手続きを踏んでいるということ、それから策定前については住民アンケート、中学生アンケートやワークショップなど様々な意見をお伺いする場を設けた中で、それを反映していきっているという経緯がございますので、そのような回答にさせていただきました。

次の5番目からが、町内に勤務されている方々のご意見になります。いくつか重複する箇所がございますので、まとめてご説明させていただきますが、まずは何かに絞って注目されることをやるべきではないかと、ここについては、この委員会の場でも議論されましたが、情報発信に取り組まなければならないというところで、それを念頭に置いて取り組んでいくという内容でございます。それと、公共交通の関係でございますが、特に定住化を含め観光面を考慮すると、バスの便数が少ない、内容の充実が求められている内容でございます。このタウンバス事業については、市営バスもありますが、公共交通というところでまちづくりの基盤となるところでありますので、バスを中心に公共交通のあり方については既に検討に入っておりますし、芦屋中央病院の移転建替に伴って、全体を見直していくという検討も進めております。こういった中で、メリハリのあるダイヤの編成なども考えていきたいと担当部署で進めておりますので、そのような回答にしております。できるだけ早く改善できるように、貴重な意見として担当にも伝えて活かしていただくというところでございます。

それから10番目は、飲食店が色々あるけど、もっと外部に紹介してもらいたいということ、それから11番目についても情報発信の関係でテレビ番組を活用した紹介についてで

ざいます。

これらについても、情報発信プロジェクトという組織で掲げておりますが、特にテレビ関係の活用は重要と考えておりますので、まずは話題性も含めた中で取り組みを進めていきたいと考えております。

次のページです。プレミアム商品券を増額してはどうかという意見でございますが、これは実際にやる段階での参考にさせていただこうと考えております。今までは、国・県の補助があるといった関係で厚みをもたすことができましたが、今後の方向性が明確に見えていないところもございしますが、できるだけ対応できるよう努力したいと思っております。

出合いの場の創出のところで、情報発信と関連しますが、テレビ番組の誘致等をしてはどうかと考えています。

ビジネス創出に関しましては、海沿いのイメージというところ、地産地消の関係がございします。これにつきましても、実際にどの程度できるかという問題がございしますが、金融機関の支援をいただきながら一体的に取り組んでいけるよう仕組みをつくっていかうとされています。ここには書いていませんが、国のほうでも新たな制度を色々と考えてあるようございしますので、新年度になりましたらそのような制度も明らかになると思っております。使えるものは使いながら、起業であったり、町内事業者さんに対する支援策などを行っていかうと考えています。

それから16番目です。海・歴史・町民の団結というところでは、観光推進プロジェクトという推進組織を再構築した中で、強化しようということで当初予算にも反映させていただいております。

次に特産品でございしますが、特に農産物・水産物と商工業の連携を活用していきながら加速化していかうと考えているところです。既に商工会では特産品等の開発について検討を進められていますし、町でも地域再生マネージャー事業といった助成事業を行いながら、推進していかうというところございします。

それから大学・民間企業の活用ですね。これについても、連携は当然必要となってきますし、有機的にそれぞれの関係者をつなげることで最大限発揮できるように取り組もうと考えております。

5ページ目です。19番目は、田舎ではなく大都市圏の町として便利さは周りで受けながら、芦屋町に住んでいただけるような取り組みや、芦屋の良さを出していければというところございします。特に北九州市との広域連携を推進しておりますの、その中で機能を分担していければと考えております。

22番目です。外部から来た人や、海外の方の意見も活用していただきたいということで、やはりマーケティングや、芦屋町へ来られる方のニーズもしっかり把握していく必要があるということで、これらの調査分析もやっていかうと考えております。国のほうが提供しています地域経済分析システムというものがあります。例えば、今マリンテラスにいる方が何県から来たのかであったり、次にカーナビで設定したところがどこなのか、何時間滞在したのかなどが出るような国のシステムです。こういったものを活用しながら必要なターゲットを絞りながら調査分析を行うということで、回答させていただいております。

また、同じような意見でございますが、大学連携につきましましては、現在九州女子大学と九州女子短期大学との地域包括連携といたしまして、大学と町がタッグを組みましようとい

う動きをしております。新年度から動けるように、現在下準備を進めております。

併せて九州共立大学も同じ系列になりますので、連携できないかという話し合いを進めているところであります。また、タウンバス事業については九州産業大学と連携した中で、利用者の状況を把握するシステムの開発や、いま行っているのはバスがどこを走っているかをリアルタイムでパソコンで観られるような仕組みをつくっていただくなど、そういったものを活用していこうと連携を進めているところです。

余談ではございますが、情報発信については、いま地方創生加速化交付金ということで、国が補正予算で何かユニークな取り組みについて補助をしますよというものがあります。情報発信や観光推進の分野について、企画書をつくって国に提出しているところです。もしこれが認可されれば、情報発信でいえばテレビ番組のタイアップであったり、動画の作成などの取り組みも可能になってくるかと思えます。今はそういったところを狙って動いているところでございます。

少し話がそれてしまいましたが、パブリックコメントについては、以上のような形で回答させていただきたいと思えます。総合戦略はつくるのが目的ではなく、実行することに意義がございますので、我々としては一つでも実現できるように動いておりますので、ご理解いただければと思えます。

(会 長)

ありがとうございました。今回の意見提出者 11 名というのは、多いのではないかと感じております。また、激励的な意見も非常に多く、大変ありがたいという印象を受けました。何か皆さんからこれに関して意見等がございましたら。多少注釈を加えるなどのところはあるかと思えますが、大きく戦略に反映させるものはないかと思えますが。タウンバスについても、地域公共交通会議で色々と利用促進に向けた取り組みを行っておりますし、公共交通については公共交通網計画という新たな計画策定の流れにもなっております。何か意見や質問等はございますか。

(委 員)

このような考え方は、ホームページか何かで回答するのですか。

(事務局)

最終的にはホームページに掲載する中での回答とさせていただきます。これはまだ事務局の案でございますので、行政内部でもう少しブラッシュアップして、町で最終決定をして議会報告をさせていただきます。そこで承認いただいたものを公開するということになります。最終形ができましたら、パブコメの結果と合わせて皆さんには事前にお知らせをさせていただきます。

それから一点申し忘れておりましたが、素案で修正するところがないと申し上げましたが、目標値の中で観光入込客数をあげさせていただいておりましたが、その数値が策定時に確定していなかった関係から、1 年前の数値で記載しておりました。素案でいう 21 ページですが、25 年で 570,000 人になっていましたが、26 年の数値が 3,000 人程減りました。これは、夏場の天候不順で海水浴のお客さんが減ったということで、減っております。

そのため、ここの数値だけは訂正をかけさせていただこうと思います。

(委員)

目標値は変わらないのですか。

(事務局)

目標値は、高く掲げたいというご意見もいただいておりますので、変えずにいいこうと思いますが、ご意見いただければと思います。

(会長)

これも根拠があって計上されている数値でございますので、当初どおりの数値で進めさせていただければと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

はい。

(会長)

ありがとうございます。それではパブリックコメントについてはよろしいでしょうか。

それでは、次第の2番、人口ビジョン・総合戦略(案)のとりまとめ・答申について、事務局より説明をお願いします。

2 人口ビジョン・総合戦略(案)のとりまとめ・答申について

(事務局)

先ほど申し上げましたとおり、観光入込客数の現状値を修正させていただくというところでございます。我々としては、この戦略を実行する段階で、国の補助制度活用や、制度創設について取り組みを進めているところでございます。この素案につきましては、推進委員会から町へ答申という形をとらなければなりません。この案をもとに町へ答申してよいか、審議をしていただければと思います。

戦略の中身については、毎年結果を評価しながら、必要に応じて見直しを行わなければなりません。引き続き見直しの必要がでた場合には、本委員会で検討させていただくような形となります。以上の点を踏まえ、本日ご審議いただきますようお願いいたします。

(会長)

ありがとうございます。今ご説明がありましたように、既に取り組めるものについては進めていただいているということでございます。これにつきまして、この案をもとに町に対して答申してよいかということで、皆さんのご意見をお伺いします。

(委員)

異議なし。

(会 長)

よろしいでしょうか。いろんな分野にまたがっていますが、皆さんのおかげで非常によくまとめられた戦略になっているのではないかと思います。事務局が言われていたように、戦略の進捗を見ながら、また、好調な事業については目標値の修正を行うなども当然出てくると思います。毎年見直しを行う中で、また皆さんのお力をいただきたいと思います。ということで、答申書を町に提出するということですが、答申書に附帯意見をつけるというケースもあります。例えば進捗管理をすることなどの意見を付すことがあります。この推進委員会については任期が2年間ありますし、検証をしていくという体制もできておりますので、敢えて附帯意見を明記しなくても、担保されているところですので、私の意見ですが附帯意見は必要ないのかなと思っておりますが、いかがでしょうか。人口ビジョンと総合戦略を添えて答申いたしますという文面で進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

(委 員)

異議なし。

(会 長)

ありがとうございます。それでは、事務局と調整のうえ町長へ答申させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

3 総合戦略の進行管理について

(会 長)

それでは、議事次第の3番、総合戦略の進行管理ということで、いま説明がありましたが、これも事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

先ほど、まとめてお話ししましたが、この総合戦略は如何に進めていくかが大事なところとなります。国からもそのような説明がっておりますが、国が言っているからするのではなくて、当然ながら必要となってきますので、毎年この結果を評価し、見直しを必要に応じてやっていくものでございます。それで、組織体制については推進委員会ということで、これまでは戦略案を作成するという役割でございましたが、今後は総合戦略の評価・検証、各種施策や事業の進行管理、戦略・施策の見直しの検討、こういったものを役割として担っていただきながら町全体で進行していこうというところでございます。任期が29年の9月まででございますので、是非その間は、適宜ご意見等をいただきながら参画をお願いしたいと思います。

会議につきましては、年度があけてからになります。前の年の評価検証の場を5月から6月に1回。町では8月から11月にかけて翌年度の計画をたて、予算をつけていく作業があります。この段階で、ここは見直しをするということが決まっていなくて、予算に反映できずに実行できないことになってしまいますので、10月から11月にかけて翌年度に向けた見直しの検討を2回程度開催させていただき、進行管理していきたいと思っております。必要に応じて、これ以外にも集まっていただくこともあるかもしれませんが、今のところこのような形で進めさせていただこうと考えております。よって、引き続きご協力をお願いしたいところでございます。以上です。

(会 長)

ありがとうございます。これに関して、意見等はございませんか。今年については、5月開催は少し厳しいかもしれませんが、ここは無理をせずに開催時期は考えていいかもしれません。よろしいでしょうか。

(委 員)

はい。

(会 長)

ありがとうございます。それでは、その他で何かございますか。

(事務局)

本当に皆さま、5ヶ月の間、精力的に議論をしていただき、有難うございました。ワークショップの時は右往左往してしまいましたが、結果的にすばらしい戦略になったのではないかと思います。これから、戦略を実現するために気を引き締めてとりかかりたいと思います。よろしくお願いたします。

(会 長)

約半年という長期間にわたりご審議いただき誠に有難うございました。最初のワークショップを行ったことが、非常にいい戦略の策定につながったのではないかと思います。他の市町にはないような作り方をさせていただきました。まさにこれからが勝負です。実質4年間という中で、如何に盛り上げていくかが大事だと思います。この4年間で社会情勢は大きく変わっていくと思います。その中で、この戦略も臨機応変に見直しながら芦屋町を盛り上げていくような役割であってほしいと思いますので、皆様のご協力をいただければと思います。長い間ご協力いただき有難うございました。それでは、これをもちまして芦屋町地方創生推進委員会を終了させていただきます。